

会場での質疑の概要

1. 柏崎刈羽原子力発電所6, 7号機における安全対策と新規制基準への適合性について

【ご質問】

航空機墜落による影響の検討はいつできるのか？（柏崎会場）

【回答】

航空機墜落に対する検討は既にしており、対応する手段は既に確保できていると考えておりますが、さらにそれを強固なものにするための対策を継続的に取り組んでいきます。

【ご質問】

新規制基準では、今回の説明の他にも必要な項目があるのではないかと？（刈羽会場）

【回答】

設備の問題の他にマネジメントの問題があり、組織の安全文化や技術的能力、組織体系などについては、規制委員会で審査を受けることとなっています。我々の組織に何が欠けているかを確認する意味でも、審査を早く受けたいと考えています。

【ご質問】

具体的にどうやって避難すればよいか？（柏崎会場、刈羽会場）

【回答】

何重にも安全対策をしても、万が一放射性物質が出た場合には、いかに住民の皆さまに安全に逃げていただけるかということになります。小さな情報も早く出し、風向きや避難経路など自治体や国と連携をとってまいります。

【ご質問】

住民の避難に関しては、自治体任せではなく東京電力もどう捉えているのか？
（柏崎会場、刈羽会場）

【回答】

地域の皆さまに避難をお願いしなければならないような状態となりそうな時には、自治体任せではなく当社も一体となってやっていきます。具体的な運用等はこれから十分に調整させていただきます。

【ご質問】

中越沖地震の際、6号機で海水へ、7号機で大気への放射能放出があったが住民に避難連絡がなかった。この反省と対応策はあるのか？（柏崎会場）

【回答】

それぞれ放出の確認までに時間がかかっており深く反省しています。ただし、放出に気付いた直後にそれぞれの放射性物質の被ばくの影響を評価して公表しています。放射性物質の放出に関しては、一刻も早く皆さまにお伝えする必要があると認識しており、しっかりやっていきたいと思っております。

【ご質問】

住民避難に必要な、放射能拡散予測などをする新たなソフトの開発をお願いしたい。（柏崎会場）

【回答】

当社は拡散予測に関して独自のソフトウェアをもっており、万一の事故の際にはその計算結果を国や自治体と共有して避難に役立てたいと考えております。

【ご質問】

地震予知ができなければ、新規制基準でも安全は保証されないと思うがどうか。（刈羽会場）

【回答】

地震が「いつ起きるのか」については有識者間でも予知は難しいという意見が多くなっています。一方、「どのくらいの規模の地震が起きるのか」については、調査などを行うことにより、ある程度予測

が可能です。この予測に基づき、十分な余裕をもって耐震設計を行ってきた結果、中越沖地震においても安全上重要な機器の損傷は認められず、さらに、耐震グレードの低い設備もほとんど損傷が認められませんでした。

【ご質問】

地震調査委員会（2008年1月）では、国土地理院から中越沖地震の時に、西山から荒浜（長さ10 km、深さ4 km）にかけて断層が1 m以上動いたという見解が示されたが、東電は反論もしていない。これについて東電としての見解を述べよ。（刈羽会場）

【回答】

当社の見解は、新潟県の技術委員会など、公の場で報告しています。

ご指摘の点は、国土地理院が中越沖地震後の地殻変動を説明するモデルとして示しているもので、当社としては、国土地理院の見解や、その他の各機関の見解も総合的に考えて、これを公開の場で審査いただくことで手続きを進めてまいりました。

今後も新規制基準に基づき厳しく審査をされるものと考えています。

【ご質問】

福島第一事故が収束していないのになぜ新規制基準への適合性の申請をするのか？（柏崎会場）

【回答】

福島の事故を踏まえて、6、7号機で取り組んでいる我々の安全対策が新しい安全基準に適合しているか客観的に審査していただくことは、重要であると考えています。

【ご質問】

首相は「新規制基準を満たし、地元の合意を得た原子力発電所から再稼働していくべき」と発言しているが、所長の考えは？（刈羽会場）

【回答】

仮に、審査申請に適合しても、新潟県は技術委員会での議論があり、柏崎市長からはフィルタベントの具体的な運用方法を定めるよう求められております。従って、新規制基準への適合は最低限の条件と考えており、これをクリアしたからと言ってそのまま再稼働できるとは考えていません。

2. フィルタベント設備の概要について

【ご質問】

フィルタベントは安全のためなら、6・7号機に限らず他の号機にも設置すべき。（刈羽会場）

【回答】

フィルタベント設備設置工事は、現在、1、5、6、7号機で進行中です。残りの2、3、4号機についても、順次工事を進めてまいります。

【ご質問】

フィルタベントについて、99.9%除去できると言っているが、100%除去はできず、被ばくを強いということではないか。（柏崎会場）

【回答】

フィルタベントは、セシウムなど長期の影響が及ぶ放射性物質については十分に除去性能があり、敷地外の放射線量をおよそ1ミリシーベルト以下にでき、長期の避難を避けることができます。

【ご質問】

フィルタベントでは希ガスは除去できないのに、安全なのか？（柏崎会場）

【回答】

希ガスは放出の際にその場にいると危険ですが、各種対策によりなるべく長時間、格納容器に閉じ込めれば大幅に減衰します。また、避難の状況を確認してから放出することになります。なお、希ガスはセシウムと異なり一箇所に留まらず拡散して流れていきます。

【ご質問】

福島事故前までは「事故はない」「五重の壁に守られており放射能は外に出さない」と言ってきたはず。フィルタベントは、低減したとしても、放射能を出すということ。

（柏崎会場、刈羽会場）

【回答】

絶対安全はないと言うことは、今後も申し上げ続けます。ただし、福島事故のような炉心溶融には至らないように、今まで抜けていた安全設備の強化を引き続き実施してまいります。

3. 福島第一原子力発電所事故関連

【ご質問】

柏崎刈羽原子力発電所の地下水の現状はどうか？（柏崎会場）

【回答】

福島ほどの大量の地下水の流れはありません（※）が、深いところでは海水に近い水が出てくるので建屋の外壁に止水処理をしています。

（※）本回答は、説明会当時の情報に基づき、「福島県の太平洋側を全体的にみると、阿武隈山系から福島第一原子力発電所を含む沿岸部にかけて、すなわち山から海へ向かって大量の地下水の流れがあるが、柏崎刈羽原子力発電所付近と福島第一原子力発電所付近とは地形が異なるため、地下水の流れも異なる」とのイメージでご説明させていただいたものです。

しかしながら、その後の調査から、全体的に阿武隈山系から海へ向かっての流れはありますが、福島第一原子力発電所で懸案となっている地下水は、主に敷地に降った雨水によるものと分かってきています。敷地への降雨が地下水となるという点は柏崎刈羽原子力発電所も同様と考えています。

なお、柏崎刈羽原子力発電所の建屋周りは、福島第一のように地下水が原子炉建屋やタービン建屋に流入するようにならないよう、止水処理を施しています。

（平成26年1月21日追記）

【ご質問】

福島第一の汚染水漏れは、300トンが一気に流れ出たものではないようだが、日頃の目視点検はしていたのか。（刈羽会場）

【回答】

300トンの汚染水は、一日に出たものではなく、1ヶ月以上かけて出たものであると考えています。放射線量が高く過酷な状況下のため、巡視点検が行き届かなかった反省があります。今後は、人数と頻度を増やして、設備の強化と巡視の両方を組み合わせた対策をとってまいります。

【ご質問】

福島第一の汚染水の問題は、本当に収束の見通しが立つのか？（柏崎会場）

【回答】

東京電力は当事者能力がないとご批判いただいているが、事故を起こした当事者として全社を上げて取り組んでまいりたい。

【ご質問】

福島のが海開きし、子どもたちが泳いでいる様子を見たが、その後汚染水の漏えいがあった。安全なのか。（刈羽会場）

【回答】

汚染水が港湾内に流出した後に、近隣の海水浴場の放射能を測定しており、結果は全て検出限界値以下であり、放射能は非常に低いレベルでありました。

【ご質問】

タイムリーな情報を発信していきたいと言っていたが、福島第一の汚染水の問題の公表は遅れている。（柏崎会場）

【回答】

状況をもう少し確認したいという思いで公表が遅れてしまいましたが、そういう姿勢がよくないということを痛切に感じています。こういった事が繰り返されるようなら信頼は回復できないと思っており、今後改めたいと思います。

【ご質問】

福島第一事故は、格納容器が機能しないことを宣言した。技術的な敗北である。反省は？

(刈羽会場)

【回答】

格納容器の設計の考え方は、事故が起きたときにそれをコントロールするところまでの設計であり、それを超える事故に至った場合を、必ずしも設計条件にしていまませんでした。この点は反省です。事故に至った状態で、いかに閉じ込め機能を維持していくのかということを含めて追加的な対策をしていきます。

【ご質問】

福島第一事故を踏まえ、メルトスルーへの対策はしているのか？ (刈羽会場)

【回答】

溶けた燃料が圧力容器の底を破り、格納容器内に落ちてくることを想定しています。格納容器内のコンクリートに落ちた燃料に対して、注水冷却をすることによりコンクリートとの反応を抑制します。

【ご質問】

福島を除染は出来るのか？ (柏崎会場)

【回答】

除染特措法に基づき、国・自治体が主体になって、当社がサポートする形でやらせていただいています。例えば自治体では、モデルとなる除染されている地区をつくってそれを広げていく方法で進めています。これからも放射線量がゼロに近づけるよう、国・自治体と一体となって対応させていただきたいと思います。

【ご質問】

東京電力は、福島第一事故により放出した放射性物質を、「無主物」と主張して、賠償の責任がないとしていたが、いまでもその立場か？ (柏崎会場)

【回答】

一つ一つの事案について、福島第一の事故との因果関係を精査して、賠償をしっかりと対応していきます。

【ご質問】

福島の幼児の甲状腺ガンと福島第一事故との因果関係を東電はどう考えるのか？ (柏崎会場)

【回答】

調査結果には、「発症までの期間が短いことから現時点で放射線被曝の影響をうかがわせる所見はない」との見解も示されており、私どもも同じ考え方です。

【ご質問】

東電への賠償請求は時効になるのか？ (柏崎会場)

【回答】

被災者の方が時効によって賠償が受けられない状況は絶対にあってははいけないと考えており、例えば民法上の時効が成立したとしても直ちに賠償を打ち切るということはありません。

【ご質問】

福島事故の後始末に全ての力を投入するのが東京電力の義務だ。 (刈羽会場)

【回答】

当社の2大課題の1つとして捉え、1月には福島復興本社を設立し、全社を挙げて、賠償、除染、復

興に努めています。

4. その他

【ご質問】

なぜ社長、副社長はこの説明会に来ないのか？（柏崎会場）

【回答】

相澤副社長は、福島汚染水問題に現地で対応中です。そのような中での最高責任者は今回出席している姉川であり、事務系の責任者は今回出席している増田であり、責任ある対応をさせていただきます。

【ご質問】

県内の他の地域でもこのような説明会を開催しないのか？（刈羽会場）

【回答】

現在、県内各地域には、自治体への直接説明を行っています。県民の皆さまに対しては、プレス発表やホームページ、メルマガ、サービスホール説明会などで広く情報発信をしています。今後も情報発信の充実に努めてまいりたいと思います。

【ご質問】

福島との比較から柏崎刈羽原子力発電所の現状説明をして欲しい。（柏崎会場）

【回答】

福島第一と柏崎刈羽の違いは、端的に言えば安全上重要な設備がすべて原子炉建屋の中にあるということです。そのため対策をしやすい面がありますが、それに安住せず安全対策を進めていきます。

【ご質問】

3年連続赤字の回避は、どうやって達成するのか。原発の再稼働は視野に入っているのか。

（柏崎会場、刈羽会場）

【回答】

徹底的なコストダウンにより黒字化を成し遂げていきたいと思っています。仮に25年度中に再稼働しない場合にも、徹底したコストダウンにより乗り切りたい所存です。

【ご質問】

賠償のために国から借りたお金はちゃんと返すのか？（刈羽会場）

【回答】

先々、国へ返済するものであります。

【ご質問】

アメリカでシェールガスの採掘をしたら地震が増えたと雑誌で読んだ。佐渡沖でシェールガスを採掘すると聞いたが、発電所でも地震が起きるのではないか。（刈羽会場）

【回答】

シェールガスの採掘により地盤に影響が及んで、小規模の地震が頻発すると報告されている例があります。ただし、発電所の設備に影響が生じるような大地震が発生するものではないと考えています。

【ご質問】

使用済燃料の処分地も決まっていなくて、安全と言えるのか。（刈羽会場）

【回答】

発電所内の使用済燃料プールの燃料についても、リスクであると認識しています。使用済燃料は、発電所の使用済燃料プールから、青森県六ヶ所村の再処理工場や、むつ市で建設中の中間貯蔵施設へ持っていき、再処理または保管することになっています。

以上